

軟体部が残存したまま採集された本州初記録のヒナメダカラ (軟体動物門, 腹足類, タカラガイ科)

淤見 慶宏*・土生 紳吾**・久保田 信***

Yoshihiro OMI, Shingo HABU and Shin KUBOTA: First record of *Purpuradusta microdon*
(Mollusca, Gastropoda, Cypraeidae) with a soft part from Honshu, Japan

ツمامラサキメダカラ属 *Purpuradusta* はタカラガイ科の中では小型の種群で、日本では普通種のツمامラサキメダカラ *P. fimbriata* (GMELIN) とメダカラガイ *P. gracilis* (GASKOIN), 比較的普通に分布するツマベニメダカラ *P. minoridens* (MELVILL), および稀少種のヒナメダカラ *P. microdon* (GRAY) とハモンドダカラ *P. hammondiae* (IREDALE) の計 5 種が報告されている (淤見, 1998, 2000; 堀, 2000)。これら 5 種中で最小種のヒナメダカラは、標準的な個体が殻長約 10mm, 最大で殻長 18mm までしかない (LORENZ & HUBERT, 1993)。本種は外見上ツマベニメダカラに最も類似するが、貝殻が紡錘形となるのが特徴であり、殻口歯列が細かい点で異なる。また、老成した個体は前後端が発達する (BURGESS, 1985)。ヒナメダカラの地理的分布はインド-太平洋の潮間帯から水深 50 m であるが、日本沿岸では奄美大島以南 (淤見, 1998) と伊豆諸島八丈島 (西村, 1998; 淤見, 2000) からしか採集されていなかった。

ところが、2002 年 4 月に和歌山県御坊市下楠井で著者の一人、土生は、ヒナメダカラ *P. microdon* (GRAY, 1828) の成貝 2 個体を採集した。御坊市沖のエビ刺し網の混獲物中から同時に発見され、2003 年 1 月に殻の洗浄を行ったところ、内部に軟体が付着していたことが確認されたため、2 個体とも生貝または死んで間もない状態で採集されたと断定した。本種は近年に打上げ採集で発見された死貝が和歌山県串本町で既に記録されているが (前岩, 1999)、軟体が殻内に残存したまま採集されたことはなかった。今回採集された個体は和歌山県御坊市沿岸海域での分布を実証するので、貝殻の計測値とともに報告する。

標本 1 (Fig.1, 1-3): 殻長 11.0mm, 殻幅 5.5mm, 背高 4.7mm。

標本 2 (Fig.1, 4-6): 殻長 10.5mm, 殻幅 5.6mm, 背

高 4.6mm。

和歌山県沿岸ではタカラガイ科に精通した複数の地元採集者が高頻度で打上げ採集を行っているが、ヒナメダカラはわずかな数しか採集されておらず、前岩 (1999) によれば、和歌山県下のヒナメダカラの打上げ採集個体数の割合は、ツمامラサキメダカラ、ツマベニメダカラ、ヒナメダカラの合計個体数を 100% とした内の 2% 程度とされている。本種のような浅海を中心に分布する種については、打上げ死貝の採集個体数は生息実態を反映していると推定されるので、和歌山県での生息数は極端に少ないと考えられる。その 1 例としては和歌山県白浜町番所崎周辺海域の打上げ標本中には、本種はまだ出現していない (久保田・小山, 2002a, 2002b; 久保田, 未発表)。本種は、上記のように本来、低緯度の暖海を分布の中心としているため、低水温期のある和歌山県沿岸海域で恒常的に棲息している可能性は低く、殆どの個体が水温の低下に伴って冬季に死滅するものと思われる。したがって、本報の 2 個体も黒潮系暖流の影響による偶発的で稀な出現と推察される。

引用文献

- BURGESS, C. M. 1985: Cowry of the world. Gordon Verhoef Seacomer Publications, Cape Town, South Africa. 289 pp., 20 pls.
- 堀 成夫. 2000: タカラガイ科. 232-233 頁 in 奥谷喬司編. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版, 東京.
- 久保田 信・小山安生. 2002a: 番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜)へ打上げられた軟体動物貝類目録 (1). 南紀生物, 44 (1), 69-76.
- . 2002b: 番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜)へ打上げられた軟体動物貝類目録 (2). 南紀生物,

* 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-20-8 Sendagaya 4-20-8, Shibuya, Tokyo 151-0051, Japan

** 〒371-0203 群馬県勢多郡粕川村月田 310-3 Tsukida 310-3, Kasukawa, Seta, Gunma 371-0203, Japan

*** 京都大学フィールド科学教育研究センター海域ステーション瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町) Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

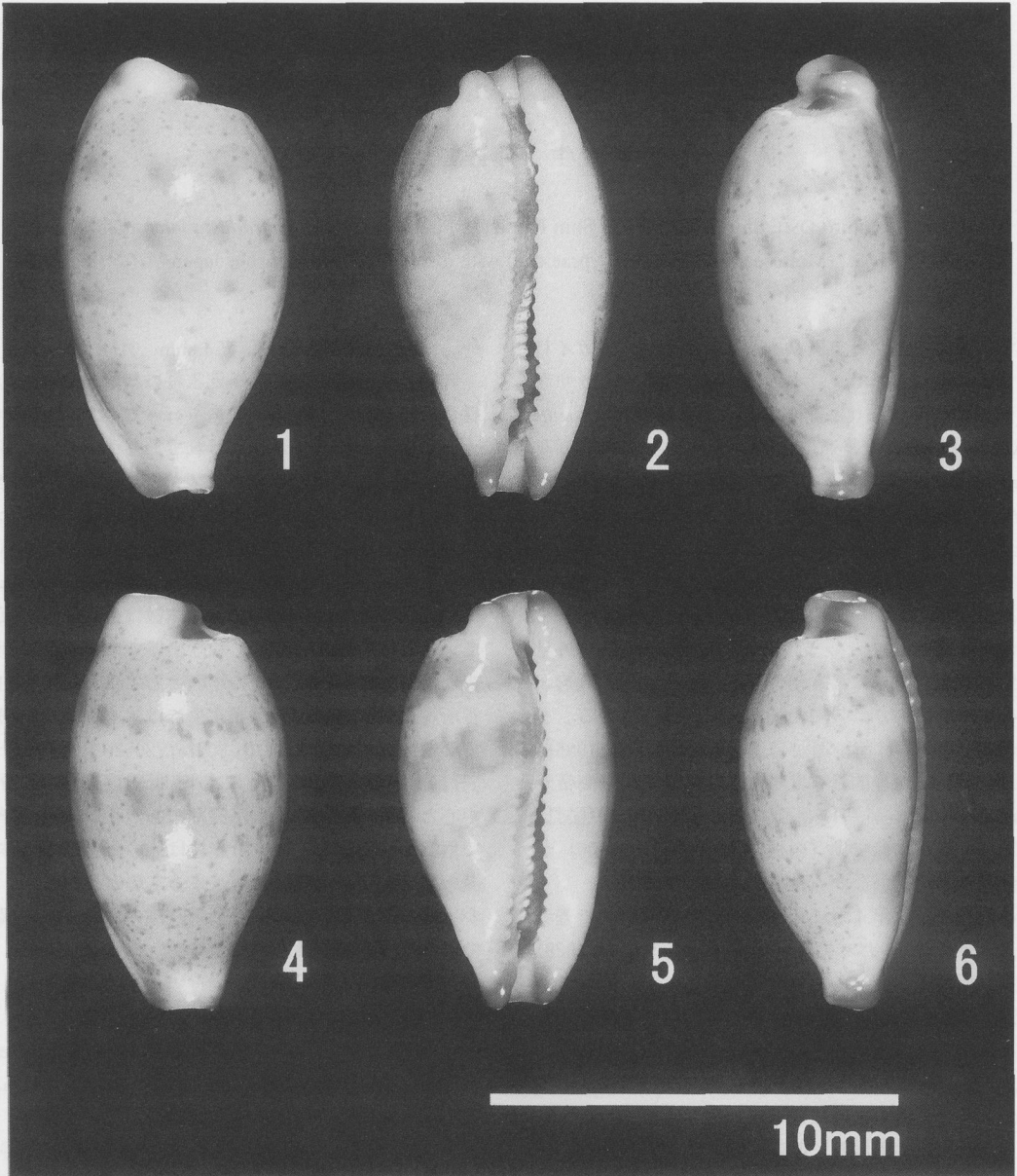


図1-6：和歌山県御坊市沿岸産のヒナメダカラ。

図1-3：標本1（1：殻背面；2：殻腹面；3：殻内唇側面）。

図4-6：標本2（4：殻背面；5：殻腹面；6：殻内唇側面）。

Figs. 1-6 : *Purpuradusta microdon* from the coast of Gobo City, Wakayama Pref., Japan.

Figs. 1-3 : Specimen 1 (1 : dorsal view; 2 : ventral view; 3 : columellar marginal view).

Figs. 4-6 : Specimen 2 (4 : dorsal view; 5 : ventral view; 6 : columellar marginal view).

44 (2), 133-139.

LORENZ, F. JR. & A. HUBERT. 1993 : A guide to worldwide cowries. Verlag Christa Hemmen. Germany. 571 pp., 122 pls.

前岩 崇. 1999 : ツمامラサキメダカラ属について. 本覺寺籽貝, (27), 13-15.

西村和久. 1998 : 伊豆・小笠原諸島のタカラガイについて. ひたちおび, (78・79), 24-27.

湊見慶宏. 1998 : 日本産タカラガイ類総目録-国内文献における分類の再検討-. みたまき, (34), 3-37.

———. 2000 : 八丈島産ハモンドダカラ. ちりぼたん, 31 (2), 35-38.